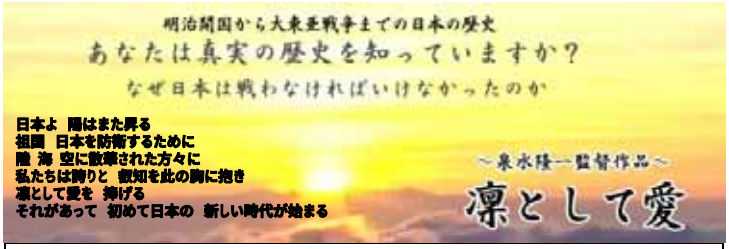


「凛として愛」は YouTube (1/7～7/7)、ニコニコ動画(1/3～3/3)で見る事ができます。(検索 ⇒ **凛として愛**)
脚本・監督・ナレーションをされました泉水隆一監督は、国家のために尊い命を捧げられた数多の英霊に報いるには、「凛として愛」が日本全国に広まり、一人でも多くの日本人が先人がたに対して感謝と哀悼の思いを持つことだと生前、切々と話されていました。
故泉水隆一監督の崇高な思いを心に刻み、私たちは「凛として愛」が一人でも多くの国民の目にふれることを願って止みません。「凛として愛」を収録したＤＶＤは送料、手数料込みの 1000 円でお譲りしております。
お名前、ご住所、ご連絡先、枚数をご記入の上 hanadokei2010@gmail.com までお問い合わせください。
愛国女性のつどい 花時計 「凛として愛」拡散プロジェクト

「凛として愛」拡散プロジェクトホームページより http://www.hanadokei2010.com/rintositeai/index.php

「凛として愛」について … 明治開国から大東亜戦争まで日本が戦って来た歴史を約 70 分でまとめております。

- 明治 27 年の朝鮮半島をめぐる清国との戦い
- ロシア、フランス、ドイツの三国干渉
- 朝鮮半島、満州をめぐり大国ロシアとの戦い
- 満州事変、支那事変、ＡＢＣＤ包囲網。

なぜ日本は戦わなければいけなかったのか。資料に基づいて制作された映画です。
(学校でも、マスコミ(ＴＶ･新聞) *でも教えてくれない)「真実の歴史」を知る事ができます。
*産経新聞･やまと新聞･チャンネル桜は除きます。この報道機関は真実を伝えようと努力してくれています。

制作の経緯

靖国神社創立百三十年記念事業の一環として本館改修と新館増築にともない遊就館で真実のドキュメンタリー映画を上映することになり其の映画制作を依頼されたのが泉水隆一監督でした。
監督が渾身の力を込め二年の歳月をかけて出来上がったのが「凛として愛」でした。
映画完成前から他国からの批判を気にした保守陣営の圧力などがありました。
上映はされたものの、この歴史の真実を伝える「凛として愛」をたったの二日で上映中止にしてしまったのです。
監督の無念さは計り知れません。

泉水隆一監督について

泉水隆一氏はアニメ『新造人間キャシャーン』や『うる星やつら』などの脚本スタッフとして制作に関わってきました。
「凛として愛」の監督･脚本･**ナレーション**を泉水隆一氏ご本人が行っています。
泉水監督は平成２２年７月１６日に逝去されました。8 年前の此の日、僅かに二日半で上映中止され絶望の淵にあった日でした。
泉水氏の告別式は式場の関係で２６日に行われましたが、この日こそ、泉水監督が反日思想がはびこり、総理大臣も靖国神社に背を向ける日本の現状を憂いて、靖国神社に、渾身の思いを込めて書かれた、映画制作への珠玉の趣意書を出された日でした。

＊「愛国女性のつどい 花時計」は「産経新聞」「チャンネル桜」「やまと新聞」を応援しています！
どうか「産経新聞」と「朝日新聞」の違いを、インターネットで調べて、知ってください。

どうか「凛として愛」を一人でも多くの日本人に広めるためにご協力をお願い致します。

YouTube『凛として愛 (1/7)』 コメント欄より

評価の高いコメント
◎日本人なら必ず見て下さい！ 日本に誇りを取り戻そう！ 私達の素晴しき先人達を誇ろう！
◎この動画は全ての日本人に見て欲しい位です`` up 感謝です。

コメント抜粋
◎友人から勧められて DVD を見ました。涙が止まりませんでした。私も去年まで偏向報道で騙されていましたが、今では日本が世界で一番好きになりました。英霊様への感謝の気持ちで一杯です。
◎真実を伝える映像は捏造映像とは品格が違いますね。
◎英訳して世界中の人に見てもらいたい
◎ブログに使わせていただきます。靖国神社の検索で見つけました。「凛として愛」ありがとう
◎多くの日本人に見てもらいたい。とくに私としてはこの時代に多くの苦労をされた高齢の方々を看護する病院関係者にみてほしい。大切に敬愛の念を以て看護してほしい。
◎最後の７まで観ました。涙がでました。どうもありがとうございます。日本を護らないと英霊に申し訳ない気持ちになります。エックス良いじゃないですか？とってもバックとも合ってて素晴らしい選択です。
(注：X-JAPAN の選曲は泉水隆一監督が若いスタッフの意見を取り入れたのだそうです。それからナレーションは監督ご自身がされていますが、自分では考え付かない台詞が多々出てくるのは英霊さんたちが言わせたのかもしれないとおっしゃっていらしたそうです。)

「凛として愛」 1シーンより

【日本の侵略行動と言われた満州事変は、まさに戦後に捏造され、今日まで長く続いているものなのだ。**真実を隠し、覆い隠すものは誰か。**】
YouTube『凛として愛(4/7)』 3 分 50 秒頃 (ＤＶＤ：32 分過ぎ)
「真実を隠し、覆い隠すもの」…どうか皆さんもその正体を考えてください。
残念ながら今の日本では「真実の歴史」を、学校でもマスコミ(産経新聞除く)でも教えてくれません。自分で調べない限り「真実の歴史」に辿りつけないのです。
未だに「日本は侵略戦争をした」と「日本は悪者である」と、自国民にさえ堂々と学校で教え、堂々とＴＶ･新聞で報じ、政治家でさえ「他国に迷惑をかけた」と謝罪してしまうこの**「真実を隠し、覆い隠すもの」**の正体をご自分で探してください。
(検索 ⇒ 歴史問題は日本発 歴史問題の捏造 マスコミの正体 朝日新聞の正体)

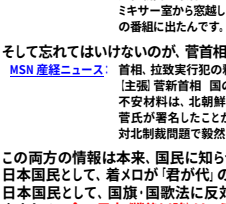
YouTube『凛として愛(1/7)』より
(小学校の時に初めて遊就館に行ったんですけれども、その時に、あの一初めて戦争に行った方の、遺書や想いが綴ってある資料を見て涙が出てきたんです。それで、そのことについて私は小学校で何も教わってなかったなと気がついたんです。教科書にもあまりそういう事が載ってなかったし、日本の歴史だけじゃないかも知れないんですけど、世界の歴史を学んでも、やっぱりその時代に生きた人にしかわからない歴史っていうのがあると思うんです。絶対にそういう状況にならなきゃわからない……)
・・・・・・・・・・・・・・
ニッポンは敗れたままでいる。
平和を享受する現代ニッポンから遠く離れた異国には未だ収集されない将兵の遺骨が山野に埋もれている。
いつになったらニッポンは戦いに散った将兵を暖かく迎えてくれるのだろうか、全国民が祈りを捧げてくれるのだろうか。靖国神社に祀られる二百四十六万六千余柱の英霊は未だ侵略戦争の汚名をきせられたままでいる。
かつて南方の島々で戦ったニッポン軍に援軍は来なかった。**ならば今から援軍を送る。**
ニッポンを変える援軍を送る。あなた方の真実を、痛みを、私たちは伝えていきます。

YouTube『凛として愛(5/7)』 6 分 30 秒頃 (ＤＶＤ：44 分ぐらい)
子どもを愛し、妻を愛し、兄弟を慈しみ、両親を尊敬する多くの先人、誰一人、日本が侵略戦争をしたとは思っていません。外国の土地を強奪した事実もありません。
礼(れい) 義(ぎ) 智(ち) 信(しん) という厳しい道徳観の中で育った日本人は、不正義を憎み、卑怯･卑劣を嫌う武士道を軍人魂として教育されてきています。
あなたがもし日本人ならば、そして正義を愛するならば、かつての日本人も同じ日本人です。
あなたがたが誇れる先人の方々です。
あなたが自分を信じるならば、日本を守った先人を信じてください。英霊を、先人の「愛」を見つめてください。

どうか「真実の歴史」を知っている政治家、日本を愛し、国益を護ってくれる政治家を、一人でも多く国政に送ってください！ 日本を護るために！！

皆さんは今の国会議員の中に「真実の歴史」を知っている議員はどれぐらいいると思いますか？
残念ながらごく少数しかいないのではないかと思います。先の衆議院選挙で「真実の歴史」を知っており、日本を護るために頑張って来られた政治家の方々はことごとく落選してしまいました。 (検索 ⇒ 国想う在野議員の会)

「真実の歴史」を知っている政治家、それを国民に伝えようとしている政治家は、ことごとくマスコミによって叩き潰されるか、国民に知られないように無視されてしまうのです。



安倍元総理の「戦後レジームからの脱却」や教育改革というのは、国民への「真実の歴史を知りましょう」、子ども達へ「真実の歴史を教えましょう」というメッセージでしたが、見事にマスコミに叩き潰されました。

「凛として愛」をご覧になられましたら、安倍元首相がおっしゃっていた「戦後レジームからの脱却」 「美しい国、日本」というのは、こういう事だったのかと、理解できると思います。そしてそれを潰そうとしているのが**「真実を隠し、覆い隠すもの」**である事に気づいてください。
安倍元総理はそういうものと闘っていたために徹底的に、マスコミパッシングを受けました。
麻生元総理も「真実の歴史」を知っています。麻生元総理の着メロは「君が代」です。国会中継でも取り上げられました。
(検索 ⇒ 麻生 君が代 着メロ)
かたや菅首相はかつて「国旗･国歌法」に反対し、最近ではミッキー安川氏(故)の番組内で国歌斉唱時に立ったか立たなかったかが国会で質疑応答される始末です。 (検索 ⇒ 菅 国旗国歌)

MSN 産経ニュース: 「菅首相は立たなかった」 国歌斉唱問題で答弁と矛盾の証言 (2010.8.22 21:45)
「菅さんは立とうとしなかった。安川さんから『立つだけ立ちなよ』と促され、ようやく立った」
産経新聞の取材にこう証言したのは、現場を目撃した男性スタッフ(53)だ。男性は番組中、スタジオの首相らの様子を隣のミキサー室から窓越しに見ており、今でもはっきりと記憶している。 ／ 安川氏はゲストに次のように語っている。「菅さんがこの番組に出たんです。さあ(君が代を)歌えよと言ったら、『えっ、なに、国歌を歌うの。おれ歌いたくねえんだよな』と言って…」

そして忘れてはいけないのが、菅首相は拉致実行犯の辛光洙容疑者の釈放嘆願書にサインしているという事です。
MSN 産経ニュース: 首相、拉致実行犯の釈放嘆願署名「反省している」(2010.6.14 17:00)
[主張] 菅新首相 国の針路正し危機打開を ばらまき政権公約を撤回せよ (2010.6.5 03:11)
不安材料は、北朝鮮による拉致問題への対応だ。拉致実行犯である辛光洙(シン・ガンス)容疑者らの釈放嘆願書に菅氏が署名したことがあるからだ。個別名まで確認する余裕はなかったなどと釈明しているが、明確に謝罪すべきだ。対北制裁問題で毅然(きぜん)とした姿勢を示すかどうか注視したい。

この両方の情報は本来、国民に知らせるべき情報ではないでしょうか？
日本国民として、着メロが「君が代」の総理って嬉しくないですか？
日本国民として、国旗･国歌法に反対した人、拉致実行犯の釈放嘆願書にサインした人に総理になって欲しいと思いますか？ 今の日本(戦後以降)はこういう情報が国民に届かない(届けない)仕組みになっている事に気づいてください。

そして忘れてはいけないのが、中川昭一元議員(故)です。彼も必死に日本を護ろうと闘って下さいましたが、彼に対するマスコミ叩きは皆さんのご記憶に新しいと思います。西村眞悟元衆議院議員はご自分のＨＰで、中川氏の事を以下のように書かれています。
[あの中川さんの朦朧状態は、飲酒によるのではない。それを裏付ける証言もある。しかし、マスコミは、真実を追究するよりも、中川非難のプロパガンダに流れ込み、一切の弁明を許さなかった。経験した者にしか分からないことかもしれないが、中川さんにとっては、日々繰り返される報道によって、その都度千枚通しで体を突き刺されるほどの苦痛だっただろう。特に、選挙中の精神的苦痛と肉体的疲労は計り知れない。この攻撃は、殺意を上回る執拗さであった。いずれ書くが、父上の中川一郎氏と同じように、**日本を愛し、日本を取り戻そうとした中川昭一さんに対する八ヶ月におよぶマスコミの執拗な攻撃は、「予告された殺人の記録」である。**]

「朝日の嘘報道！中川大臣のバチカンでの失態はなかったとバチカン和田誠神父が語る」
(正論２００９年５月号 P100～101)
●バチカン神父が見た“あの日”の大臣(バチカン放送局 神父 和田誠) (検索 ⇒ 中川 バチカン神父)
私は今、日本から送られてくる報道に、大きな戸惑いと、深い悲しみを抱いています。
私自身も関わった中川前大臣の博物館見学が、何故あのように、事実と異なる形で報じられるのでしょうか。(中略)
朝日新聞の報道ののち、私は日本の新聞社、通信社、テレビ局から取材を受け、事実かどうかと聞かれました。
そこで、中川前大臣の行動に非常識な点はなかったと繰り返しご説明したのですが、**私の発言は一行も報じられませんでした。**
日本のマスコミはすでに、中川前大臣は酔っていたはずだ、非常識な行動をしたに違いない、という先入観にとらわれており、私の意見をまともに聞こうとはしなかったのでしょう。どの報道も朝日新聞と似たり寄ったりだったことは、残念でたまりません。
中川前大臣には、ご同情申し上げます。また、御家族をはじめ身近な人たちのご心痛を思うと、やり切れない思いです。私はたまたま通訳として、今回始めて中川前大臣とお会いしましたが、その場にいたものとして、事実と異なる報道で苦しんでおられるのを見過ごすわけにはいきません。このため取材にも積極的に応じてきましたが、記者たちの先入観を改めることはできませんでした。
今はただ、バチカン観光における誤解が一日も早く解け、皆さまに心に平穏が訪れるよう、祈るだけです。

MSN 産経ニュース: 「主人は不器用でも嘘はつかなかった」故中川元財務相夫人、郁子氏 (2010.7.17)
主人は本当にばか正直で不器用でしたが、うそをつくことが決してなかった。社会で生きていくにはうそもつかなくちゃいけないかもしれないけれど、せめて政治家はうそをつかないでほしい。

MSN 産経ニュース: 「売国やめよ」中川昭一さん偲ぶ会で菅政権に批判続々 (2010.9.29)
昨年10月に急死した中川昭一元財務･金融担当相(享年 56)を偲ぶ会が 28 日夜、都内で開かれ、政界や官界、財界などから１０００人以上が集まった。希代の保守政治家を慕う人々からは、沖縄･尖閣諸島沖での中国漁船衝突事件で「弱腰外交」を続ける菅民主党政権に対し、厳しい言葉が聞かれた。(夕刊フジ)
このようにマスコミは敵(?)を決めたら徹底的に叩きます。しかし、安倍･麻生元総理、中川昭一さん、西村眞悟さん、田母神さん達がマスコミでどんなに叩かれても、インターネットで根強い人気があるのは、誰が、日本を愛し、国民を愛し、国益を一番に考えてくれている愛国者か知っているからです。中川昭一さんの会見を何度流されようとも、愛国議員がどんなにＴＶ･新聞でパッシングを受け落選しても、マスコミの手段を知っているので、中川さんをはじめ愛国議員･愛国者を応援する気持ちは変わりません。
しかし、新聞･ＴＶからしか情報を取っていない方々は、誰が「真実の歴史」を知っている政治家か、誰が日本を愛し、国民を愛し、国益を一番に考えてくれている政治家か知りません。新聞･ＴＶが知らせないので当然だと思います。
そういう中でまさに今、**「真実を隠し、覆い隠すもの」**たちによって現政権が誕生しました。
私たちは特定の政党や政治団体にも属していません。「真実の歴史」を知っており、海外からの圧力や、謝罪要求にも毅然とした態度が取れ、日本の国益を護る、政治家を応援したいと思っています。
私たちは日本国民が「真実の歴史」、「マスコミの正体」を知り、正しい情報が与えられたなら、正しい判断をしてくれると信じています。そのために「凛として愛」をＴＶ･新聞に頼ることなく、「真実の歴史」「マスコミの正体」を先に知ったものの務めとして、知らない方々へ拡散して行きいと行動を起こしました。
インターネットで「愛国議員」で検索すると、様々なサイトがあります(逆もありますので是非！)。その情報を参考にし、ご自分の地域の愛国議員を見つけてください。育ててください。国会議員だけでなく、地方議員にもたくさんの愛国議員さんがいらっしゃいます。チャンネル桜さんの番組に出られたり、日本解体法案*を阻止しようと、街に出て訴えたり、日々頑張っていらっしゃいます。当HPでもこういう愛国議員さんを紹介しようと思いますので機会がありましたら覗いてみて下さい。
MSN 産経ニュース: [日本解体３法案] ステルス作戦で準備着々 (2010.7.3)
民主党が実現を目指す永住外国人への地方参政権(選挙権)付与法案、選択的夫婦別姓を可能にする民法改正案、人権侵害救済機関設置法案(旧人権擁護法案)－の３法案が、参院選の争点にならないまま着々と準備されている。民主党は、国論を二分するこれら３法案を参院選マニフェスト(政権公約)に記載していない。その一方で、菅直人首相や関係閣僚は推進派として知られており、自治労など民主党の有力支持団体は強く成立を求めている。秋の臨時国会以降に順次法案成立を図ってくる公算が大きい。

井上政典さん(歴史ナビゲーター)は以下のようにおっしゃっています。皆さんも近くの国会･地方議員に関わらず聞いて下さい。きっと愛国者は嫌な顔を一つせず、キチンと丁寧に答えてくれると思います。
もう一度選挙の時に、テレビや新聞の情報に惑わされずにきちんと候補者の演説会に出て、「あなたは日本が好きですか？」と聞いてください。「はい」と即答したら、「尖閣諸島に行って戦えますか？」と聞いてみてください。どう返答するのでしょう。日本の国会議員ならば、一辺たりともわが国の領土を他国に譲り渡す事があってはなりません。強く主張して初めて議論のテーブルに着く輩が相手だということを知るべきです。
私たちはいろいろな情報をインターネットから知ることができました。しかし、こういう愛国議員の方々は何から情報を得たのだろうと考えます。まだインターネットがない時代に「真実の歴史」を知ったという事は、日本という国を知り、護るために、きっとたくさんの本を読み、たくさん勉強をしたのではないかと想像します。どうかそういう議員さんを応援して、国政に送り出してください。どうぞよろしくお願い致します。

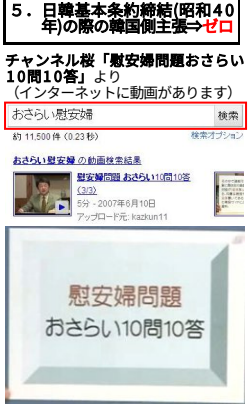
【青山繁晴さん 「ネット動画「題人大陸」民主党も自民党も死ぬ覚悟で政治をしているか？！」より】
選挙戦になって「私を助けてください」と、例えば土下座をする政治家に投票するという事は現に行われてきました。
「私を助けてほしい、自分も助かりたい、そういう人は政治家になるな！」というのが本当はまさしく、民主主義の政治だったらそこが一番基本なんですよ。**「私は助からなくてもいい、他の人を助けたいんだという人だけを国会に送る」**という有権者に僕たちは変わらないと、自民党や民主党そんなことに関係なく、この国の政治は変わらないと思うんですよ。
「青山繁晴さんとは？」 (検索 ⇒ 青山繁晴)
毎週水曜日、関西ＴＶの夕方のニュース番組「スーパーニュース･アンカー」という番組に出演されてニュース解説をされています。
放送直後にはインターネットで番組動画が配信され、木曜日早朝には主婦の方によって番組の文字起こしが UP されています。
チャンネル桜さん解説「独自且つ的確な視点と情勢分析による鋭い提言や価値ある情報発信において他の追随を許さない」

☆「愛国女性のつどい 花時計」応援議員さんたち☆ 青山繁晴さんのおっしゃる、自分より国民を大事にして下さる方々です。
下記、議員さんの選挙区の皆さん、どうかご自分の選挙区にこういう議員さんがいてくれる事を誇りに思ってください。
安心して国政へ送り出してください。不安な方はインターネットで議員さんの名前を入れて検索して下さい。もしかしたら皆さんが知らない活動の数々に驚かれるかも知れません！ 日本にはこの方々のお力が必要です。どうぞよろしくお願い致します。
中山成彬[宮崎１区]／**荻生田光一**[東京24区]／**赤池誠章**[山梨１区]／**木原誠二**[東京20区]／**木原稔**[熊本１区]
萱沼敏太郎[千葉５区]／**戸井田とおる**[兵庫11区]／**西川京子**[福岡10区]／**西村眞悟**[大阪17区]／**林潤**[神奈川４区]
牧原秀樹[埼玉５区]／**松本洋平**[東京19区]／**鳥渡龍治**[愛知３区]／**武藤容治**[岐阜３区]

チャンネル桜「朝日が作った歴史」より

「慰安婦」強制連行説の虚構性
1．政府・軍の指示文書⇒ゼロ
2．加害者の証言⇒吉田清治氏のウソ以外ゼロ
3．目撃者の証言⇒ゼロ
4．被害者の証言⇒裏づけのあるものはゼロ
5．日韓基本条約締結(昭和40年)の際の韓国側主張⇒ゼロ

チャンネル桜「慰安婦問題おさらい10問10答」より
（インターネットに動画があります）



Q１．そもそも「慰安婦問題」って何？

先の大戦中、日本の軍や国家機関が組織的に主として朝鮮人女性を強制連行して将兵の性的欲求を処理する従軍慰安婦にしながら、戦後日本政府は一切その責任を取ろうとしなかった　とされる問題。

Q２．では朝鮮人女性の「強制連行」はあったのか？

これまで朝鮮女性の強制連行があったことを証明する確かな根拠は一切、示されていない。

Q３．証拠としてはどんなものがあり得るのか？

(1)軍・官憲などが強制連行に関与したことを示す文書
(2)裏付けのある被害者の証言
(3)同じく加害者の証言
(4)同じく目撃者の証言
これらの中、一つでも確かなものがあれば事実と認めてよい。

Q４．証拠となる文書はないのか？

ない。そのことはいわゆる「河野官房長官談話」で広義の強制性を認めた河野洋平氏自身が「強制的に連行されたものであるかどうかということについては、文書、書類はありませんでした」と名言している（平成9年6月17日）。

Q５．被害者の証言は数多くあるのでは？

政府は韓国の運動団体（太平洋戦争犠牲者遺族会）が選んだ16人の元慰安婦の聞き取り調査を行っているが、検証も裏付け調査もしていない。
聞き取りには福島みずほ弁護士などが立会人として同席しており、証言者名も証言内容も全く公開されていない。これでは確かな証拠にはとてもならない。
さらに元慰安婦として韓国政府に届け出た人が155人。その中生存者は74人（平成4年現在）で、民間の運動団体、韓国挺身隊問題対策協議会に登録している者は55人。
その中で連絡可能な40人余を対象に聞き取り調査をした結果を挺対協が『証言集』として刊行している。同書は韓国外務省が「これに全部書いてある」と折り紙をつけた韓国サイドにとっての切り札的資料。
ところが韓国の運動団体の調査でも矛盾が多く、省略や混乱、意図的な歪曲などが激しく、実際に同書に採用されているのは19人の証言のみ。
その19人の中、権力による強制連行の証言は4人だけ。その中の2人は富山や韓国の釜山など実在しない慰安所に連行されたことになっている。
残る2人は金学順・文玉珠両氏。
しかし金氏は母親に40円でキーセンに売られ、文氏は宋という朝鮮人に「食堂で働かないか」と誘われてビルマで慰安婦になった。
のちの証言変更に信用性はない。
結局、信用できる被害者の証言はゼロ

「元慰安婦」の証言は信用できるか？
上野千鶴子氏「一番基本になるはずの当事者証言…ご本人達が「強制があった」とおっしゃっている…」
日下公人氏「ご本人は『自分が進んでやった』とはそれは言わないでしょう。『強制された』と言うでしょう。そう言わなければ自分の親戚全部に迷惑かかりますからね」
上野氏「いまのご発言はご本人がうそつきとおっしゃったのと同じことになります。」
日下氏「はい、そうです」
上野氏「…被害者と目される方たちも、日下さんによる揚げ足取りが可能なような多様性を持っていることを十二分に承知しております。」
（朝日新聞社「論座」平成16年2月号より）

Q６．加害者の証言は？

吉田清治氏（偽名、本名・雄兎）のウソ証言があるだけ。
吉田氏は軍命令により全羅南道済州島で徴用隊10人、現地軍の兵10人とトラック2台によって女性205人を強制連行したという（『私の戦争犯罪－朝鮮人強制連行』昭和58年）。
しかし、吉田氏の証言が全くウソであることは、現地の『済州新聞』（1989年8月14日許栄善記者）の記事や秦郁彦氏の現地調査（『正論』平成4年6月号）などによって明らかだ。
吉田証言を取り上げるべき強制連行を煽った『朝日新聞』すら「朝日新聞などいくつかのメディアに登場したが、聞もなく、この証言を疑問視する声が上がった」（平成9年3月31日）と事実上の否定宣言を行っている。

Q７．目撃証言は？

これもゼロ。被害者と称する人がいても目撃証言が韓国人の中から全く出てこないのも不思議な話だ。

Q８．戦後の日韓国交樹立に当たっての交渉過程で慰安婦問題はとりあげられたのか？

日韓交渉は14年間にも及び微細に両国間に存在する問題が逐一取り上げられたが、慰安婦問題について韓国側も一切言及しなかった。

Q９．証拠となる確かな文書も被害証言も加害証言も目撃証言もなく、日韓国交樹立に当たって韓国側も一切取り上げなかったことが国際問題化したのは何故？

平成になって『朝日新聞』が火をつけ、宮澤喜一政権が「謝罪」路線に走ったから。
平成3年8月11日、『朝日』の植村隆記者が元慰安婦の証言なるものを報じた（大阪本社版）。これが「慰安婦問題」のそもそもの発端だった。当時、韓国内でも一切報道はされていなかった。
その内容は金学順氏が「女子挺身隊」として「戦場に連行された」との捏造報道だった。
女子挺身隊は日本国内の軍需工場や被服工場などに動員された人々で「戦場」に出向くはずはないし、もとより将兵の性欲処理とも全く無縁だ。さらに金氏は「連行」されたのではなく貧しい母親に売られたのだった。

つまり「慰安婦問題」は『朝日』の捏造報道から始まったのである。
同年12月16日、韓国の太平洋戦争犠牲者遺族会が元慰安婦3人を含む35人を原告として一人2000万円、計3億円の損害賠償を求める訴えを東京地裁に起こした（高木健一主任弁護士*）。
これを『朝日』が大々的に報じたことで一挙に重大問題化した。
しかも問題を決定的に悪化させたのは、当時の宮澤首相の姿勢だった。
真相を明らかにし、どこまでも事実に基づいて韓国と対応することをしないで韓国側に責められるままに非を認め謝罪することで事態を沈静化しようとした。それが宮澤内閣総辞職前日に発表された河野官房長官談話（平成5年8月4日）だった。
これによって日本政府自身が「官憲等」による慰安婦の「強制」連行への「直接」の「加担」を認めたことになり、国際社会におけるわが国の名誉は著しく傷つけられた。

国民に事実を知らせないために、今日本はこういう状態に！
【日韓併合首相談話 2010.8**】一部抜粋**
私は、歴史に対して誠実に向き合いたいと思います。歴史の事実を直視する勇気とそれを受け止める謙虚さを持ち、自らの過ちを省みることに率直でありたいと思います。痛みを与えた側は忘れやすく、与えられた側はそれを容易に忘れることは出来ないものです。この植民地支配がもたらした多大の損害と苦痛に対し、ここに改めて痛切な反省と心からのお詫びの気持ちを表明いたします。
MSN 産経ニュース（2010.7.15）
「慰安婦」政府への意見書、地方議会で可決広がる　「後世に汚点」批判も
全国の地方議会で、公的謝罪や国家賠償などにつながる「誠実な対応」を政府に求める意見書が相次いで可決されている。（注：なぜか東京都内で可決されている自治体が全部、今の菅総理の旧東京７区の選挙区自治体ばかり？？）

*1　高木弁護士に関しては産経新聞阿比留記者のブログにこういう記述があります。（検索　⇒　慰安婦　高木）
高木氏に関しては、やはり最近、紙面やブログで才ハリンピックの残留韓国人支援問題での暗躍を取り上げてきましたから、それも参照にしていただければ幸いです。ともあれ、平成８年にインドネシアで取材した元日本兵で先の大戦終結後はインドネシアに残り、独立戦争に加わった石井サトリア氏はこんな経緯をこう指摘しました。
「慰安婦問題が浮上したのは三年前、日本から三人の弁護士が来て地元紙に広告を出し、慰安婦補償のために日本から来たので面接したい。名乗り出てください と告知したからだ」
*2　「日本人が捏造したインドネシア慰安婦」、中嶋慎三郎）
インドネシアでは2万2千人の女性が拉致され、騙された慰安婦だったと名乗り出ていますが、当時、インドネシア日本軍は2万人です。そりゃあ、新聞広告で名乗り出れば200万円やるといえば、現地では数十年分の年収になるわけですから名乗り出るでしょう。それ以前には、騙された拉致されたと言い出す元慰安婦は全く存在しなかったそうです。
スエノ社会大臣が、すぐにマスコミ関係者を集め、次の見解を明らかにした。
1) インドネシア政府は、この問題で補償を要求したことはない。
2) しかし日本政府（村山首相）が元慰安婦にお詫びをしてお金を払いたいというので、いただくが、元慰安婦個人には渡さず、女性の福祉や保健事業のために使う。
3) 日本との補償問題は、1958年の協定により、完結している。
インドネシア政府の毅然たる姿勢で、高木弁護士らのたくらみは頓挫した。（韓国では成功？）
この声明の後で、取材した中嶋氏は、数名のインドネシア聞僚から、次のように言われたという。
「今回の事件の発端は日本側だ。悪質きわまりない。だが、我々は日本人を取り締まることはできない。インドネシアの恥部ばかり報じてインドネシア民族の名誉を傷つけ、両国の友好関係を損なうような日本人グループがいることが明白になった。あなた方日本人の手で何とかしてください」

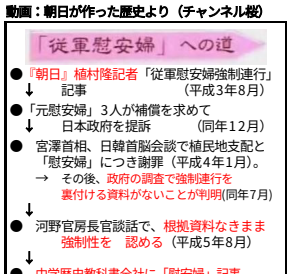
*3　高木健一弁護士は現官房長官の仙谷由人氏の友人と言われています。（阿比留記者ブログより）
過去エントリで何度も取り上げてきたあの高木健一弁護士の名前がまたまた出てきました。そして、この高木氏に関して、仙谷氏が７日の日本外国特派員協会での講演で「友人」として紹介したことや、共著もあることも以前のエントリで触れた通りです。
MSN産経ニュース（2010.8.1）
【土・日曜日に書く】政治部・阿比留瑠比
仙谷長官の危うい思想背景
≪慰安婦訴訟で暗躍≫
「東京の高木弁護士の指示を受けて始めた。『早く進めろ』と催促も受けた」
協議会のタスリップ・ラハルジョ会長は当時、ジャカルタ郊外の事務所で私の取材にこう証言した。（中略）
サハリン高麗人協会のパク・ケーレン会長はこう語った。
「東京で大きな弁護士事務所を開いている高木弁護士が、もっと日本から賠償を取れるから要求しなさいと教えてくれた」
仙谷氏の友人は、世界をまたにかけ、火のないところに火をつけて回っているようだ。

Q１０．日本は元慰安婦に対して賠償責任があるのか？

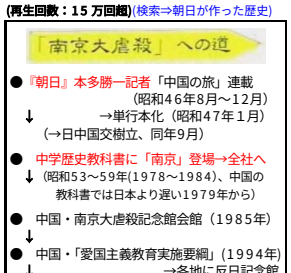
ない。軍、官憲等による強制連行の事実が確認できない上に、昭和40年の日韓国交樹立の際に締結された「請求権・経済協力協定」によって「完全かつ最終的に解決された」ことが両国によって確認されているからだ。日本は同協定によって無償3億ドル、有償２億ドル計５億ドルを韓国に供与する巨額の経済協力を行った（当時の韓国の外貨準備高1億3000万ドル）。

結論！
慰安婦問題は法的にも史実的にも実在しない。河野談話による政治的幻影のみが存在し、日本の国益を損ない続けているのだ。

動画：朝日が作った歴史より（チャンネル桜）



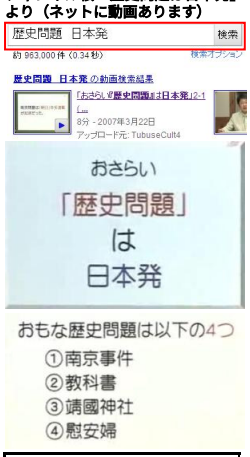
（再生回数：15万回超）(検索⇒朝日が作った歴史)



靖国問題に火を付けたのは報ステの加藤千洋だった！

靖国神社問題
①『朝日』加藤千洋記者
↓　（昭和60年8月7日）
「中国『日本の愛国心を問題視』」ほか一連の記事によって8月15日の中曽根首相(当時)の靖国参拝を繰り返し批判
②社会党田辺誠書記長も訪中（同8月26日）
こんなひどい事を中国は許しておいていいのかとふきこむ
③翌8月27日、中国姚依林副首相が始めて政府要人として中曽根康弘首相の靖国参拝を批判。以降靖国問題が外交カードとなる。

チャンネル桜「歴史問題は日本発」より（ネットに動画あります）



①南京問題のおこりは？

今につながる南京問題の発端は昭和46年8月から『朝日新聞』に連載された本多勝一記者の「中国の旅」。ここから全て始まっている。
東京裁判以降この連載が始まるまで、南京問題は日本国内でも中国でもほとんど取り上げられることはなかった。
各社の中学校歴史教科書に登場するようになるのは昭和53年から(50年に1社のみ)。59年からは全社となる。
ずっと南京問題が国際問題あるいは国内での歴史の重要なテーマになっていたのではないし、教科書にも昭和40年代の教科書にそういった事が大々的に書かれるという事も全くなかった。
中国の歴史教科書に「南京大虐殺」の記事が出てくるのは1979年(昭和54年)から。日本の歴史教科書より遅れて取り上げられている。南京大虐殺記念館の建設はさらに遅れて1985年(昭和60年)だった。
それまでこんな記念館もなければ中華人民共和国の教科書で大々的に日本の罪悪の代表例として反日の所在として取り上げられるような事もなかった。
日本の教科書の方が先に取り上げて、そしてその教科書に取り上げる先鞭をつけたのは朝日新聞本多勝一記者の連載であった。

南京問題は『朝日』本多連載が起源だった。

②教科書が国際問題化したのはいつから？

発端は昭和57年の教科書誤報事件
文部省記者クラブ所属の日本テレビの記者が、世界史の教科書の検定で、原稿に「侵略」とあったのを「進出」に書き替えさせられたと誤った報告をした。これを各社が確認もせずに一斉に報道し、中韓両国の反発を招いた。
これはこの年行われた教科書検定がどのように行われたのかという事について、教科書が多数あるので、各社が分担で調べて、各社それぞれ報告をしてそれを全社の共有財産として報道するという事であった。
しかし一般の報道であればいいが、重大な記事としてあげる場合は、当然各社ごとにその報道が正確であったかという確認、裏取りをしてから報道に及ぶのが常識である。それをしないで「これは大変だ」と大きく報道したので中国・韓国が一斉に反発した。
しかも事態を致命的に悪化させたのは、当時の鈴木善幸政権の対応だった。
どういう対応？
当時の小川平二文部大臣が国会で「書替えの事実なし」と明確に答弁(同年7月)したにもかかわらず、宮澤喜一官房長官談話なるものを発表し、教科書検定において中韓両国の主張に配慮することを表明。
その談話の実効化を図るべく検定基準に「近隣諸国条項」を追加して、両国の干渉を恒常化し、制度化する受け皿を日本自ら作ってしまった。
教科書問題は日本のマスコミ各社の誤報に端を発し、鈴木政権が対応を誤ったことで長期にわたる国際問題になってしまった。
誤報から始まった。しかもこの時の日本政府の対応は中韓両国に非常に過ったメッセージを与えてしまった。
叩けば日本は譲歩する。事実がないにも関わらず譲歩して、しかも教科書を今後中韓に配慮した教科書作りをしますという制度まで作ってしまった。これは中国・韓国に日本を扱うにはどうすればいいかという事について重要な教訓を与えてしまった。

MSN産経ニュースより　　←　産経新聞の応援をよろしくお願いします！
初の「全閣僚、靖国参拝せず」民主党政権下で異例の８・１５（2010.8.15）
65回目の「終戦の日」である15日は、菅内閣の自粛方針の下、菅直人首相も閣僚もその他の政務３役も１人も靖国神社に参拝しない、政府に記録が残る昭和60年以降初めての異例の日となった。「戦没者の鎮魂は国家の基本」（故藤波孝生元官房長官）という大原則は置き去りにされ、靖国参拝に反発する近隣諸国ばかりに迎合した結果だ。この日の靖国は、こうした民主党政権の姿勢や政策に対する懸念や憤りの声で包まれた。（阿比留瑠比）
■どこの国の国益か　**「菅首相と閣僚はどこの国の閣僚で、どこの国の国益を図って行動しているのか。どんなに糾弾しても糾弾し足りない」**

③首相の靖国神社参拝が国際問題化したきっかけは？

昭和60年8月15日の中曽根康弘首相(当時)の参拝に対し、『朝日』の加藤千洋特派員が中国の抗議を引き出そうとしたとしか考えにくいような記事をしきりに流し、さらに社会党の訪中団が中曽根政権の「危険性」を大いに吹聴したため、8月27日になって初めて中国政府要人による参拝への非難がなされた。
振り返ってみてこれ以前、いわゆる「A級戦犯」が昭和53年秋の大祭で合祀されてからでも、歴代首相がすでに20回参拝を繰り返し、その間、中国は明確な抗議を全くしていない。中国の抗議はいわば後出しジャンケン、何の説得力ももちえない。
従って、「中国さん何を言ってるんですか？　これまでいわゆるA級戦犯が合祀されてからでも歴代首相堂々とお参りしてきてお宅は何も行ってきてないじゃないですか、そんな事を言ってくるのはお門違いです」と一蹴すればよかった。
それなのに、ここでの中曽根首相は、中国の胡輝邦総書記に配慮して靖国神社参拝を取り止めてしまう。
この胡輝邦総書記がある種親日的な、日本と融和的な路線を取っていたことに対する共産党の保守派が攻撃を仕掛けていた、その権力闘争の材料として靖国神社問題が取り上げられたわけです。その胡輝邦を守るために自分はもう参拝しないという意思表明をして、何とか胡輝邦を守ろうとしたわけですけれども、結局胡輝邦は失脚してしまう。
しかし日本には大きな負の遺産だけが残ったという事でありまして、吉田茂首相以降、戦後の歴代首相がほぼとぎれなく行って来た英霊への参拝がここで中断し、しかも中国側に靖国問題という外交カードを手渡してしまったのだ。
靖国問題は『朝日』と社会党の連携プレーで中国の攻撃対象として初めて浮上しました。中曽根首相の腰砕けによって長期にわたる厄介な外交カードに転化してしまった。

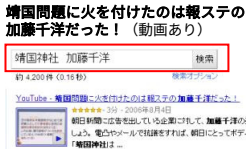
④慰安婦問題の場合は？

平成3年8月11日、『朝日』の植村隆記者が不明朗な捏造記事のスクープをおこない、謝罪路線に走った宮澤喜一内閣で慰安婦の強制連行を立証する確かな根拠が一切ないにもかかわらず、河野洋平官房長官談話(平成5年8月4日)で強制を認めたことで、慰安婦問題は国際的に固定化してしまった。
平成8年には中学校歴史教科書全社で慰安婦の記事が登場。しかし「新しい歴史教科書をつくる会」などの取り組みによって、現行の中学歴史教科書では記事に取り上げているものはゼロになった。

結論！
歴史問題はやっぱり「日本発」だった！

この問題の経緯を見ていきますと、**中・韓は日本の「弱腰融歩」というものに対する教訓を次々と学んでいきます。**
それに対して**日本政府は融歩し、そして謝罪をするという事が事態をよりこじらせ、やっかいにし、長引かせ、日本の国益を失っていくという事を学習することなく、ずるずると後退を続けてきた**という経過であったことがわかります。
もう踏ん張らなければならないところに来ています。

靖国問題に火を付けたのは報ステの加藤千洋だった！（動画あり）



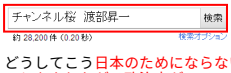
朝日新聞の加藤千洋記者が昭和60年8月7日、中国『日本的愛国心を問題視』という記事をはじめとする一連の記事でもって、この年の8月15日に予定されておりました中曽根康弘首相の参拝について、繰り返し批判の記事を書いた。
（中略：前ページ参照）
靖国神社を巡る外圧の発端は実に朝日新聞の火付け記者、火付け記事、まぁ加藤記者は火付け記者と言っていいんでしょうけど、そのように見てよろしいかと思います。

櫻井よしこ さん「あなたのおっしゃるアジアってどこの国のことかしら？」（動画あり、再生回数137万回突破！）

「アジア各国という時にですね、どの国とどの国を指しておられますか？」
「えっと特にあの中国、韓国からそういう声が出ているので……」
「中国と韓国ですね」　「はい」
「私たちはですね、ここで言葉をキチンと定義した方がいいと思うんですね。アジア各国というと、アジア全域の事という風について考えてしまいますけれども、この問題について、特に激しい批判をしてるのは、まず中国ですね、そして韓国ですね。
台湾などはもう積極的に要人がお参りに来ています。マレーシアの方だってそうですね。
ですから中国と韓国という事をまず定義したいという風に思いますし、それからこの靖国神社にA級戦犯が合祀されているからいけないというのはさっきその解説委員長がおっしゃいましたけれども、合祀は78年（昭和53年）、それが発表されたのが79年ですね、その時も大平さんは行きました。次の鈴木さんも行きました。中曽根さんも82年11月からず～っと行きました。そして85年（昭和60年）の8月15日に行かれた時に、中国が批判をしたわけですね。
私達はでは問わなければならない。
79年からずっと6年あまり何故中国は何も言わなかったのか。韓国も何も言わなかったのか。
それはずっと歴史を振り返ってみると、**極めて明確な中国の国益に基づいた戦術というか、政策があるんですね。**
85年に日本にクレームを付けた時もですね、国際社会の状況を見れば、ちゃんと中国はそのように言ったというその理由がわかるわけですね。
つまり中国が言っているのは、靖国だけの問題ではない、中国の国益を考えた時に、今、靖国に反対しなくてもいい、もしくは反対した方がいいというのがあって、靖国は入り口なんですね。
もっと根本的な日中の問題、もしくは中国とアジアの問題というものがあるという事をここで申し上げたいと思います」

日本は『いい国だ』と言ってクビになった田母神さん。
『日教組は日本の教育のガン』と言ってマスコミの大バッシングを受けた中山成彬さん。
拉致実行犯の釈放嘆願書に署名し、国旗・国歌法に反対した菅直人が日本国総理大臣、韓国で反日デモに参加した岡崎トミ子氏が国家公安委員長？
どうしてマスコミは、愛国者には大バッシングし、売国者の売国行為は取り上げないの？

チャンネル桜『渡部昇一の「大道無門」』



どうしてこう日本のためにならないことをやりたがる政治家がいるのか。
どうして日本のためにならないことを書きたがる**大新聞の社説**があるのか。
いろいろ考えて何十年経つんですよ。
それでついに結論に達しましたことは、**日本悪しかれ（あしかれ）**と思う思想をずっと抱き続けている人がいるんですよ。で、日本悪しかれという思想を抱いた人たちはね、戦前の左翼なんですよ。(現政権も？)
この人たちは、スターリンのコミンテルンからお金も、支持も受けて運動して弾圧されたわけです。
あの時の左翼でも、コミンテルンのうちの指示のうちのあほらしいもの、日本の皇室を廃止しようとか、そういう命令がきた途端に佐野学から始まって、田中清玄でも、立派な共産主義者はみんな離れてるんです。
その時にね、あくまでも日本悪しかれと凝り固まった人たちはうんと変わった人たちなんです。
で、そのかなり多くの新派の人たちは、はっきり言ってコリア系でした。
コリア系の人はね皇室がなくなるのは万歳ですよ。
「日本悪しかれ」なんですよ。
日本にいい事は一切書かない。
日本に悪いことばっかり言わせようとする。
ヒットラーも全体主義だけど、ものすごく愛国主義。ムッソリーニもそうですね、スターリンもあんなこと言いながらもものすごく愛国でしょ？
ところが日本の全体主義者はね日本嫌いなんですよ。それを考えると、思想としては、当人はそうかは別として、思想としてはコリア系左翼と。だから全体主義だけなら同じ国民だから我慢するけどね、そうじゃないんですよ。
「日本悪しかれ」なんですよ。